

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年2月8日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、トランプ大統領が高官を更迭、アメリカ民主党選挙、イギリスのラーブ外相来日 【特集】米大統領選～挑戦者は誰に？		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナウィルス</li> <li>・オープニング</li> <li>・トランプ大統領が高官を更迭</li> <li>・アメリカ民主党予備選挙</li> <li>・北海道でスノーモービル突っ込み事故</li> <li>・長崎自動車道で交通事故</li> <li>・北陸自動車道で交通事故</li> <li>・イギリスのラーブ外相来日</li> <li>・茨城県土浦の木造住宅が全焼</li> <li>・東村山市のわいせつ事件で大学生を誤認逮捕</li> <li>・横浜市でマンホールから水が噴出</li> <li>・【特集】 新型肺炎～出入国でつる不安</li> <li>・【特集】 米大統領選～挑戦者は誰に？</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし 番組のオープニングで金平キャスターが「果たしてトランプ大統領は11月の選挙で再戦されてさらに4年その座にとどまるのでしょうか、アイオワ州から火蓋が切られたアメリカ大統領選挙の現場取材しました。後ほど中継を交えてここワシントンDCからお伝えします。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は20秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・トランプ大統領が高官を更迭：結論→特に問題なし 膳場キャスターによって「ではニュースです、米メディアは7日、トランプ大統領が二人の高官を更迭したと伝えました。この2人はウクライナ疑惑をめぐる弾劾訴追に向けた下院での公聴会でトランプ氏の意向に逆らって証言をした高官たちです。トランプ氏によって更迭されたと報じられたのはホワイトハウスの国家安全保障会議のビンドマン陸軍中佐と、ソンドランドEU代表部大使の2人です。トランプ氏は去年、下院で自身の弾劾訴追に向けた調査が行われていた際、ホワイトハウスや国務省などに勤務する政府の職員が公聴会で証言することを拒否していましたが、ビンドマン氏やソンドランド氏はその意向に逆らって出席し、トランプ氏に不利になる証言を行いました。ビンドマン氏の弁護士は真実を語ったために解任されたなどとする声明を出しトランプ氏の対応を非難しています。」とのことが伝えられた。このトピックに当てられた時間は63秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> </ul>		

・アメリカ民主党選挙：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「11月のアメリカ大統領選挙に向けて野党民主党のテレビ討論会が7日、候補者選びの2選目が来週予定されている東部ニューハンプシャー州で行われました。」とのコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

"ナレ「アメリカ3大ネットワークの一つ、ABCニュースが開催した民主党のテレビ討論会、サンダース氏やブディジェッジ氏など世論調査で支持率上位の7人が参加しました。」

土居一雄（報告）「討論会では候補者選びの初戦となったアイオワ州で躍進した最年少、38歳のブディジェッジ氏に対し、他の候補者から批判が相次ぎました。」

"

サンダース（上院議員）「ブディジェッジ氏、私の陣営はあなたのように40人の億万長者から支援を受けていない、その支援は製薬業界やウォール街、そして全ての大企業からのものだ。」

バイデン（前副大統領）「ブディジェッジ氏は小さな年の視聴でいくつか良いことをしたが、幅広い支持基盤を得られる能力があるかを証明していない。」

ナレ「対するブディジェッジ氏は将来に向け、世代交代すべきだと反論しました。」

ブディジェッジ（最年少候補）「今の問題は過去を振り返っては解決できない。手遅れになる前に次のページを開き、我々の政治を変えなければならない。」

ナレ「民主党の候補者選びの二戦目、ニューハンプシャー州の予備セニョは来週18日に行われる予定です、こうした中3日に行われたアイオワ州の党員集会を巡っては今も最終結果が確定しない異例の事態となっており、アイオワ州の民主党は各候補が集計の再点検を申し立てることができる期限を当初の7日から10日の正午まで延期すると発表しました。これにより最終結果が確定するのは10日以降になる見込みで未だに混乱が続いています。」

このトピックに当てられた時間は123秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・イギリスのラーブ外相来日：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「イギリスのEU離脱後初めてとなる日英の外相会談が行われました。茂木外務大臣とイギリスのラーブ外相は今日午前、都内でイギリスのEU離脱後初めてとなる外相会談を行いました。会談で両外相はEU離脱を受けて新たに必要となる日英二国間の経済貿易に関する協定を作るため、早期に交渉を始めることで一致しました。」とのコメントを受けて、茂木敏充外相の「できる限り早期に交渉を開始し妥結することを目指していくことで一致をしました。」というコメントが取り上げられていた。これを受けて膳場キャスターによって「また、安全保障の分野での協力をさらに進めるため日英の外務防衛の閣僚会議2+2の早期開催に向けて調整することでも合意しました。このあとラーブ外相はイギリス大使館内で小泉環境大臣と会談しました。アフタヌーンティーが用意される中、両大臣は気候変動問題について、意見を交わしたということです。」とのことが伝えられた。

・【特集】米大統領選～挑戦者は誰に？：

膳場キャスターの「では、次の特集です。アメリカ大統領選挙。ワシントンには金平さんが行っています。金平さん」とのコメント、金平キャスターの「はい。4年に1度のアメリカ大統領選挙アメリカ大統領選挙が本格的にスタートしました。そのからくりはアイオワ州の党員集会です。ネートランプ大統領と闘う民主党候補は最

最終的に誰になるのでしょうか。ドングリの背比べから誰が抜け出すのか。混沌とした状態が続く党员集会の現場を取材しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集が取り上げられていた。

"男性「**president of united state.**」

膳場「今週アメリカ議会で一般教書演説に臨んだトランプ大統領。演説の直前、民主党の下院議長から握手を求められたが、これをあっさり拒否。」

トランプ大統領 (字幕)「3年前、我々は偉大なアメリカの復活を開始した。今夜、私はそのすばらしい成果を分かち合うため、皆さんの前に立っている。」

ナレ「演説終了後は、下院議長が、トランプ大統領の原稿を真っ二つに破り捨てる場面も。」

"アメリカ議会 (字幕)「あと4年、あと4年」

ナレ「大統領選を前に、早くも火花を散らす、与野党。トランプ大統領の挑戦者として現れるのは、誰なのか。」

金平「5メートルくらい先ですね。バーニー・サンダース議員が姿を現しました。」

"男性 (字幕)「不公平な法制度を廃止しよう」

ナレ「混迷を極めるアメリカ大統領選。候補者指名レース。その現場を取材した。」

女性吹替「今年は候補者選びが本当に大変よ。」

ナレ「4年前、手痛い敗北を喫した民主党。そのショックが忘れられないという人がある。セラリア・クレイスさん。」

セラリアさん (吹替)「このTシャツのメッセージがお気に入りなの。ホワイトハウスこそ、ヒラリーの居場所よ。」

ヒラリー・クリントン氏 ((字幕)「残念ながら我々が奮闘し、望んだ結果とはなりませんでした。」

ナレ「初の女性大統領候補、ヒラリー・クリントン氏のまさかの敗北。その悪夢は今も脳裏に焼き付いているという。」

クレイス氏 (吹替)「私は、ヒラリーが絶対に勝つと思っていたわ。落ち込んでずっと寝込んでいました。ハッ。本当ですよ。悲しいですね。今回、女性議員が勝つかどうかはわかりませんが、いつかはこの国も女性を選ぶと信じています。」

金平「女性候補として生き残っている民主党の中で生き残っているエリザベス・ウォーレン上院議員がですね、壇上に登場しました。歓声が上がっていますね。」

ナレ「エリザベス・ウォーレン氏。70歳。アメリカ東部マサチューセッツ州の上院議員で、左派を代表する1人だ。」

ウォーレン氏 (字幕)「私は民主主義において、お金ではなく、人を尊ぶアメリカが築けると信じています。そのために私はここにいるのです。」

金平「決して裕福な家庭で育ったわけではないという。自分の人生の経験を訴えながら、お金が人を動かしていると。腐敗が進んでいるのもそのせいだと。」

"金平 (字幕)「女性の候補者でトランプ氏に勝てると思う (do you believe)」

女性 (吹替)「そう願っています。アメリカにもそろそろ女性大統領が誕生してもいいと思うわ。」

"ナレ「一方で・・・」

女性 (吹替)「今年は候補者選びが本当に大変よ。党员集会に行くと誰を支持するか、はっきりといわなければならないんだけど、私はまだ決めかねているのよ。」

"男性 (吹替)「まだ決めていません。」

金平 (字幕)「候補者選びで一番大事なテーマは？」

男性（吹替）「僕はよくわからないけれど、君が何がいちばん大事だと思う？」

男の子（吹替）「うーん。わかんない。」 "

ナレ「オバマ前大統領時代に、副大統領を務めたジョー・バイデン氏。候補者選びの調査で、支持率第1位になった人物だ。」

"金平（字幕）「なぜバイデン氏を支持する？」

男性（吹替）「一番問題なのは、今アメリカは分裂してしまっているんだよ。人種の上でも、政治の上でもね。ジョーなら、国民を一つにできると思うよ。」 "

ナレ「会場では、ひとりひとり写真撮影に応じていた。」

金平（字幕）「日本の人たちにメッセージを」

バイデン氏（字幕）「アメリカは復活します。日本は同盟国で我々に重要な国です。敬意を持って対応します。」

ナレ「アメリカ・アイオワ州。雪の積もる住宅街で草の根の個別訪問を行っている男性がいた。民主党バーニー・サンダース上院議員の支持者だ。彼らのほとんどがボランティア。この日、およそ1800キロ離れたニューヨークから駆け付けていた。」

"サンダース上院議員の支持者（吹替）「バーニーはどう？」

女性（吹替）「前回も彼を選んだわ。」

サンダース上院議員の支持者（吹替）「注目しているテーマは何ですか？」

女性（吹替）「もっとも大事なのは、有給休暇の問題です。フルタイムで働いているけど、産休の時は無休で大変だったわ。」 "

ナレ「訪問先も、アパートから老人ホームまで多岐にわたる。」

"サンダース上院議員の支持者（吹替）「このパンフレットを差し上げます。」

女性（吹替）「わたしはバーニーを応援してるのよ。」

サンダース上院議員の支持者（吹替）「それはうれしいわ。皆さんに来てもらわないと。勝てません。あらゆる支援が必要です。ご希望なら、車も手配しますが。いかがですか？」 "

ナレ「個別訪問の途中で、共和党の支持者だという男性と出会った。」

"共和党の支持者男（吹替）「今回は民主党に入れるでしょう。共和党にはもううんざりだよ。日本の皆さんは、ワシントンでのごたごたを見て、一体どうなっているんだと思っているでしょうね。大統領のことを謝らせてください。本当にひどい男です。」

サンダース上院議員の支持者（吹替）「一緒に謝るよ。」 "

"集会（字幕）「不公平な法制度を廃止しよう。」

金平「えーバーニー・サンダース上院議員の陣営の会場ですけれども、たった今、壇上に現れるというアナウンスがありました。えー会場からは大変な歓声が・・・」 "

"ナレ「急進的な左派といわれているバーニー・サンダース氏。78歳の彼は、候補者の中で最年長だ。」

金平「とっても若い人たちが多くて・・・さまざまな人種の人たちが、混じっているという感じです。」 "

サンダース氏（字幕）「我々が求めるのは、選挙に貢献する富裕層や、1%の人々だけではなく、全てのアメリカ国民を代表する政府です。」

女性（吹替）「バーニーが指名されれば、確実にトランプに勝てると思うわ。100%よ。」

ナレ「そして今回最も注目されたのが、ピート・ブティジェッチ氏。候補者の中で最も若い38歳。同性愛者であることを公表している」

ピート・ブティジェッチ氏（字幕）「希望を持ち、覚悟を決めて、新たな歴史を作りましょう。」

"ナレ「果たして、トランプ大統領の挑戦者となるのは、誰なのか。」

ナレ「アイオワ州では、候補者を選ぶ党员集会在、およそ1700か所で行われる。その一つを訪ねた。」

金平「これ民主党の候補者を選ぶコーカスですけど、えーたくさんの方が、訪れていて、入場するのにこんなに並ぶ。」

ナレ「部屋からあふれて並ぶ、民主党員の人々。一方、共和党の集会に向かってみると、」

金平「受付が、あそこですけど、誰もいない・・・。別になんか党员集会やるまでもなく、決まっちゃってるってことですね。あっ1人いた。」

"金平（字幕）「指名候補はだれですか？」

女性（吹替）「トランプ大統領です。」

女性（吹替）「景気もいいし、軍も強いですし、私は本当に彼が今後もアメリカ人を支えてくれると思っています。」

ナレ「民主党の党员集会の会場に入ると、」

金平「これがジョー・バイデンの人たちで。あっ、あそこがウォーレンだ。ウォーレンの人が、ウォーレンの支持者が・・・。結構いますね。」

ナレ「座席には、各候補者の名前があり、指示する人たちが集まる。配られた投票用紙に支持する候補者の名前を記入する。1回目で全体の15%以上の票を集められなかった場合、2回目は他の候補の支持者に呼びかけて、15%以上を目指すか、諦めて、別の人を選ばなければならない。」

女性（字幕）「サンダース氏は49票。」

ナレ「1回目の結果は、1位がサンダース氏。2位がウォーレン氏で、ブティージェッジ氏、バイデン氏と続いた。」

男性（吹替）「あと2人来て。」

金平（吹替）「みんな来い来い言ってる。まあみんな来い、来いって自分の陣営に来いというようなまあ草の根民主主義のお手本というようなプロセスなんですけども、なんか、学校で、学級委員長をみんなで話し合いで選ぶみたいなそういう感じがしますですね。」

ナレ「優勢とみられていたサンダース氏。この日行われた集会では、」

サンダース氏（字幕）「今日はドナルド・トランプの終わりの始まりです。しかし、予想外の事態が。アイオワ州全体の集計でトラブルが発生。結果の判明が、大幅に遅れた。サンダース氏は、結果を待たず、こう言い切った。」

"サンダース氏（字幕）「共にホワイトハウスに行こう。」

サンダース氏（字幕）「アメリカの人々は大きな貧富の格差にもう、うんざりしている。」

"ナレ「支持者は」

男性（吹替）「自信はありました。力強いメッセージにみんなが感動しています。このまま勝てればいいと思っています。」

ナレ「勢いづくサンダース陣営だったが、集計が進むと・・・」

ナレ「ブティージェッジ氏がサンダース氏を0.1ポイント上回り、僅差で1位となった。」

"ブティージェッジ氏（字幕）「1年前にたった4人のスタッフで始めた選挙運動で、知名度もお金も全くなかった。」

ブティージェッジ氏（字幕）「自分自身そして祖国を信じれば、たくさんの方の支援が集まる。」

ナレ「だが、集計ミス指摘があり、今も勝者が確定しない異例の事態となっている。」

ナレ「一方の共和党は、4年前の大統領選で、取材した人をもう一度尋ねてみた。ヒスパニック系ヒスパニック系移民の、ジョーアン・チェイスさん。トランプ氏の熱狂的な支持者だ。」

チェイス氏（吹替）「彼のサインよ。こっちは2019年にもらったばかり。こちらは2015年。」

ナレ「去年もホワイトハウスで、トランプ氏と面会した。」

チェイス氏 (吹替) 「とにかく、彼はエネルギーに頑張っています。本当に元気なのよ。」

ナレ 「トランプ氏の4年間を高く評価している。」

チェイス氏 (吹替) 「トランプは、経済も雇用もかつてないほどよくなりました。多くの人々がマイホームを購入できるようになりました。私は不動産ブローカーで家を売っていますが、ヒスパニック系の人たちも、夢のマイホームが持てるようになりました。成果は信じられないほどあるのに、リベラルなメディアが取り上げるのは、ネガティブなことばかり。支持率が51%に上がったのは知ってる？今までで一番よ。民主党の人たちが魔女狩りみたいにどんなにトランプを攻撃しても、彼は常に立ち上がるわ。」

ナレ 「共和党で盤石とみられているトランプ氏だが、実は今、その支持基盤にほころびが見えている。」

記事 (吹替) 「トランプ氏は大統領執務室から追放されるべきだ。」

ナレ 「キリスト教福音派の有力紙、クリスチャニティー・トゥデイが、去年12月、社説で、トランプ氏を痛烈に批判した。聖書を重んじる福音派は、アメリカの人口の4分の1を占めるといわれ、トランプ氏最大の支持基盤だ。」

ナレ 「この社説を書いた人物を訪ねた。マーク・ギャリ元編集長。」

"金平 (字幕) 「なぜ、この社説を書いたのか。」

マーク氏 (吹替) 「弾劾裁判の動きがあって、考えました。」 "

ナレ 「きっかけは弾劾だと話す。トランプ氏は、軍事支援を取引材料として、ウクライナの大統領に対し、民主党のバイデン氏に関する調査をするよう、圧力をかけたとして、去年12月、訴追された。」

マーク氏 (吹替) 「大統領が、私利私欲で、外国のリーダーを操ろうとしたことに対する訴追であり、自分が許せる範囲を、超えていました。感じたことをそのまま書くべき時だと、思ったのです。」

ナレ 「ギャリ氏は社説で、トランプ氏について、モラルが著し欠けているとしたうえで、福音派の信者にトランプ支持を見直すように、訴えた、」

ナレ 「反響は、想像以上だったという。」

マーク氏 (吹替) 「勇気ある社説に感謝しますと書かれています。全体としては驚くほど肯定的でした。『自分が思っていたことを言葉にしてくれてありがとう。』『福音派の人でこんなことをいう人はいないと思っていて孤独でした』と。」

ナレ 「岩盤支持層である福音派から上がった批判。これに危機感を持ったトランプ氏は、先月、福音派の主張である人口妊娠中絶反対の集会に出席した。」

トランプ氏 (字幕) 「全ての子どもと胎児の権利を守り、彼らに神から与えられた可能性を実現するためにここにいる。」

ナレ 「現職の大統領が中絶反対集会で演説するのは、初めてのことだ。」

ナレ 「トランプ氏の弾劾裁判は、今週、上院で評決が行われた」

上院議員男性 (吹替) 「上院は、トランプ大統領の弾劾訴追に関し、無罪と評決した。」

ナレ 「結果は無罪。トランプ氏は、罷免を免れた。53人いる共和党上院議員の中で、保守派重鎮、ミット・ロムニー氏ひとりだけが有罪票を投じた。」

ロムニー氏 (吹替) 「自らの地位を守るために不正を働くことは、おそらく就任宣誓への最も悪辣で破壊的な違反行為だ。」

ナレ 「一夜明けて、共和党の上院議員らを集めたトランプ氏。無罪の票を入れた議員の名前を一人ずつ呼び、こう称えた。」

"トランプ氏 (字幕) 「すばらしい仕事をした。」



トランプ氏（字幕）「共和党は今アメリカ史上最強だ。」 "

ナレ「共和党元下院議員のトム・デイビス氏に今の共和党とトランプ氏について聞いた。」

金平（字幕）「共和党上院議員たちは、言いたいことを言えなくなっていないか。」

"トム・デイビス氏（吹替）「それは、上院議員たちが、トランプのことが嫌いでも、肝心の共和党支持者たちが、トランプを大好きなので、しかたないのです。」

トム・デイビス氏（吹替）「党の姿が変わったんです。トランプ氏は本当の共和党员ではありませんでした。彼は何十年もテレビのリアリティーショーをやって、視聴者のことが分かっていました。そんな彼らと直接対話し、共和党支持者を増やしたんです。彼らは裕福ではありませんでした。『忘れ去られたアメリカ人』と呼ばれる人々です。ヒラリー氏は『嘆かわしい人々』と呼びましたが、トランプ氏は政治に関心が無かった彼らを味方にして、勝利したのです。労働者階級の力でした。」 "

ナレ「トランプのアメリカは、続くのか。カーネギー国際平和研究所上級研究員で、長年日米関係を研究するジェームズ・ショフ氏は、こう指摘する。」

ジェームズ氏（吹替）「日本は貿易面では、トランプ氏の政策に納得していません。WTOの問題など、在日米軍の経費負担の問題や、パリ協定、イランの核合意の問題もあります。日本はトランプ氏の姿勢に同意しないでしょう。4年間だから我慢できたのです。でももし再選すれば、逃げ場が無くなります。世界はさらにあと4年も、アメリカを待っていることなど、できなくなるでしょう。」

VTR を受けて中継との間で以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

金平「えー取材にあたっているワシントンの岩田支局長に聞きます。岩田さん、えー大統領選挙のはなしをする前にですね、今現在のトランプ大統領の政権運営のありようというんですかね、どうなんでしょうか。」

岩田支局長「はい、一言でいえばですね、やりたい放題でとんでもないことになっているという状況です。えートランプ大統領は今週、弾劾裁判で、無罪になったことについて、公式な声明を出すということで、カメラの前に立ったんですけども、こちらの映像ですね、記者会見のようにも見えるんですが、この前の席に座っている人たち。これ全員が共和党の議員や関係者でして、記者はこのように後ろの方に立ってみるとこしかできなかったんです。えートランプ大統領は言いたいことだけを1時間も話しまして、質問は一切受け付けませんでした。そしてその弾劾裁判にしても、トランプ氏は最初から、でっち上げだというふうに断言をして、でっち上げなんだから説明する必要はないと、言った態度で、議会の調査への協力を一切、拒否しました。それからホワイトハウスでは、以前は週に何回か報道官の記者会見が開かれていたんですけども、これもトランプ大統領が、必要ないと言い出して、まったくなくなってしまいました。政権としての説明責任をほぼ投げ出してしまった形です。」

金平「そういう中でね、アイオワ州の党員集会があったわけですけども、民主党の候補者選びってのは、やっぱり混沌としている印象をやっぱり残りますね。」

岩田支局長「そうですね、トランプ大統領の言動を取材していると、まあ轟音を挙げながら猛スピードで走っていく SL、蒸気機関車をイメージするんですが、まあこれは並大抵のパワーでは止めることはできないと思います。えーこちらトランプ陣営のホームページですけども、このペロシ下院議長が自分の演説の原稿をビリビリと破る映像を繰り返し流しまして、こちらには、緊急事態だから、自分たちに100ドル寄付をしてくださいということも書いてあります。まああらゆるものを材料にしながら、着々と再選にむけて資金集めを進めています。まあ民主党の候補者選びは始まったばかりですが、これからも選挙戦を通じて、政策や論理の世界を超えて、トランプ政権が続くことへの危機感や怒りをどれだけ共有できるか。そして絶対にトランプ大統領に勝つんだという迫力を民主党全体で作っていけるかがカギになると思います。」

膳場「えー金平さん。4年前に大統領選挙を取材したときと比べて何が違うと感じますか？」

金平「うーん。あの4年前のね、あの大方の予想を裏切って、ヒラリークリントン候補が、当時はアウトサイダーだった共和党のトランプ氏にですね、敗北したあの日の衝撃ってのがよみがえってきました。この3年間で共和党は、すっかりトランプ氏に制圧されて、彼以外の候補者が出る確率ってのはゼロです。えー弾劾裁判で共和党でたった一人叛旗を翻したロムニー上院議員のスピーチも10秒間の沈黙ってのがあったんです。その重さというのをですね、非常に感じました。ただアイオワの民主党員集会で、トランプ流とは全く対照的な草の根の候補者選びの現場を見て、まあ民主主義の原点というようなものを体感したような気がします。力を振りかざす人がいて、でも諦めずに声を挙げ続けている市民らがたくさんいると。そういう意味では、アメリカの民主主義の真価が問われているのだというふうに思います。以上ワシントンからでした。」

この特集に当てられた時間は1515秒だった。

中継とのやり取りでは金平キャスターの「この3年間で共和党は、すっかりトランプ氏に制圧されて、彼以外の候補者が出る確率ってのはゼロです。えー弾劾裁判で共和党でたった一人叛旗を翻したロムニー上院議員のスピーチも10秒間の沈黙ってのがあったんです。その重さというのをですね、非常に感じました。ただアイオワの民主党員集会で、トランプ流とは全く対照的な草の根の候補者選びの現場を見て、まあ民主主義の原点というようなものを体感したような気がします。力を振りかざす人がいて、でも諦めずに声を挙げ続けている市民らがたくさんいると。そういう意味では、アメリカの民主主義の真価が問われているのだというふうに思います。以上ワシントンからでした。」というコメントにあらわれているようにトランプに対して批判的な論調であった。

共和党、民主党の両党で大統領予備選挙が大体的に行われるのは3選禁止のため、二期目を終える現職大統領が次の大統領選挙に立候補しないからであって、通常は再選を目指す大統領がいる場合はその大統領の出身政党は現職が大統領候補として選挙戦を戦い、それに対して大統領を出してない政党が現職大統領に対するチャレンジャーを予備選挙で選ぶ、というのがお決まりのパターンであるから、金平キャスターのこのような「共和党がトランプに制圧されて」というのがトランプ以外が出馬しない理由ではなく、いつもどおりのお決まりのパターンとしてトランプ大統領も二期目を目指している、という話である。

こうしたアメリカ政治の常識を無視して「この3年間で共和党は、すっかりトランプ氏に制圧されて、彼以外の候補者が出る確率ってのはゼロです。えー弾劾裁判で共和党でたった一人叛旗を翻したロムニー上院議員のスピーチも10秒間の沈黙ってのがあったんです。その重さというのをですね、非常に感じました。ただアイオワの民主党員集会で、トランプ流とは全く対照的な草の根の候補者選びの現場を見て、まあ民主主義の原点というようなものを体感したような気がします。力を振りかざす人がいて、でも諦めずに声を挙げ続けている市民らがたくさんいると。そういう意味では、アメリカの民主主義の真価が問われているのだというふうに思います。以上ワシントンからでした。」などとコメントするのは非常に一方的であり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らしても極めて問題のある姿勢と言わざるを得ない。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

特になし